

みずくらしいど

校長 加藤雅弘

「なぜ、これを学ぶのか」 = 「学ぶ意味の理解」

第3号で、6年生算数の学びの一コマをお伝えしました。その時、同時進行で他の教室でも習熟度の異なる授業が展開されていました。そこでは

「なぜ、□や○ではなくて、 abc や xy を使うのだろう？」

という問いを授業者が発し、児童に考えさせていました。これは、中学校以降の数学では、未知数が大量に出てくるから□や○では対応しきれなくなるからです。子供たちは、その説明に納得していました。この教室では教科書の問題を解くこと自体は短時間でできるため、これを考えさせていましたが、マストの内容ではありません。しかし、「なぜ、この内容を学ぶのか」ということを分かった上で学習することは、主体性に大きく関わります。児童の発達段階や習熟の状況に応じて、教えたり考えさせたりしていくことが重要だと考えています。

算数の上記の指導を行うには、小学校を終えた子供たちが、その後どのような授業を受け、どのような力が求められていくのかの見通しをもっていなければできません。小中連携事業の目的の一つは、ここにあると私は考えています。6年生の算数に限らず、全ての学年、教科において、その学習内容が後にどのように使われ、そのような意味をもつのかを明らかにするのは大切なわけですが、全科を指導する小学校教員に全てを求めるは不可能です。前号でも触れましたが、各教員が教科を決めて研鑽に励む必要があるのは、これを手分けして研究していくためです。保護者会でお配りした学校経営計画（案）の目指す教師像の1点目に「学び続ける熱意と使命感ももつ教師」としてあるのも、この理由からです。

昨年度から、宿題を自主学習に転換しようとしているのも、このシフトチェンジの一つです。

「なぜ、このことを学習するのか」を明らかにして取り組むことは、その学習の意味理解と定着に大きく作用します。学校でも、このことに意を砕いてまいります。ご家庭でも共有して

いただき、20年後の子供に生きて働く学力となることを目指して進めていきたいと考えております。しかし、ヒトも生物の一種。植物と同じように、生長の速度はまちまちです。けっして焦ることなく、長い目で、温かく見守っていきましょ

健康観察表へのご協力をお願い

6日	11
7日	8
8日	7
9日	8
12日	9
13日	6
14日	8
15日	6
16日	2

左の数値は、各月日の不備や忘れの人数です。「なぜ、忘れてしまったのか」は、ここでも大切です。職員室前に並んでいる児童に、それを考えるよう促しています。特に、週明け（月曜日）に高くなっていることがお分かりいただけるかと思えます。また、昨年は土曜日が多かったと聞いております。**逆に本日はなんと2名でした。ご協力ありがとうございました。**このぐらいただと専科の教員も授業に食い込まずに済みます。週明けと土曜日の数値が低く維持できるよう、土日も継続して記録していただくなど、ご家庭での対策、よろしくご協力申し上げます。